

立夏(今年は5月5日)から立秋の前日までが「夏」。

5月の季語 立夏 りっか

少女駆け犬駆け浅瀬夏となる 橋本 博

浅瀬に夏が来るのはずいぶん早い。今年一番初めの夏かもしれない日、子供も犬もうれしくて体が弾んでいる、そんな夏が来て、まず変わるの、子供の歓声かな。



長いパンツを脱ぎ、膝まで水に入る子もいる。

紫外線注意報!

近年、紫外線の肌への悪影響(肌の老化の促進、シミ、しわの原因など。話が逸れるが、私は子供の頃、海の家のおばさん、おじさんは皆さんお年寄りだと思っていた...その割には小さな子供を持つ人が結構いて、と思っていたが、それは、漁師かたわら海の家で、年がら年中、紫外線を浴びるため、肌の老化が年齢以上に促進されていたのね、怖っ!)で、近年はオゾン層の破壊が進んで紫外線の肌への悪影響がよく知られるようになってきたが、さらに言われ始めたのが、紫外線の「目」への悪影響のこと。

強度の紫外線を短時間浴びたことで生じる充血、角膜炎、雪眼炎などの急性障害と、長年にわたって紫外線を浴びることで生じる白内障などの慢性障害があるという。

2007年夏に<都市部で目が浴びる紫外線量>について調査したジョンソン・エンド・ジョンソン(株)(2008/4/22プレスリリース)によると、オフィス街では、ビルや路面からの紫外線の反射により、「朝から夕まで、あらゆる角度から眼は紫外線を浴びている可能性が高い」という。

いまから数年先には、紫外線の目への悪影響がよく知られるようになり、『マトリックス』のエージェント・スミスばりの黒スーツ + 黒サングラスが日常的になるかもしれない。



陽に晒された

海の近くに住んでいると、太陽が強いのと、海風が運ぶ塩気のために、金物が錆びやすい。

バイクや車、自転車など塗装がはげたり、錆びたりする。子供の自転車のハンドルに錆が出て、穴が開いて、そこに指を挟まないようにしながら乗っているのなんかも、海の近くでは目にする光景だ。金物だけでなく、木で出来たモノの寿命も短い。

こういうと悪いことのようにだが、日に晒されたモノはなかなか美しい、とも感じる。

はじめはやや黄色がかった白木のベンチでも、おもてで雨風に当たたままにしておくと、白っぽいようなグレーに変化していく。その色合いが美しい。

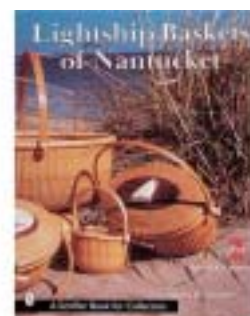
マサチューセッツ州ナンタケット島

木材が日に晒されて、色を失い、静かになっていくさまを美しい、と思ったのは、ナンタケット島やマーサズ・ヴィニヤード島の家々を見たときにも感じたことだ。

アメリカ東側にあるセレブの別荘地として、日本でも話題になる、マサチューセッツ州 Cape Cod 沖の小さな島々。そのひとつナンタケットは、もとはネイティブインディアンの居住地で、ナンタケットの名もネイティブインディアンの言葉に由来する。(遠い島の意味)

17世紀にはイギリス系のクエーカー教徒が数多く渡り、18世紀頃には捕鯨の基地として大いに栄えた。(H.メルヴィルの『白鯨』もナンタケット島が舞台になっている)

今、日本の捕鯨は動物保護に逆らうものとして基本的に禁止の状態を余儀なくされているが、18世紀には白人の捕鯨船団が太平洋やインド洋へも航海して、盛んに捕鯨していた。



Lightship Baskets of Nantucket
By Martha Lawrence

ナンタケットといえば思い出す、「ナンタケットバスケット」も、捕鯨に関係がある。というのは、捕鯨漁師が南の島から持ち帰った籐や竹の籠(バスケット)と、鯨油を入れる木樽作りの技術とがミックスして、ナンタケットバスケットが生まれたとされているから。

このバスケットは木材(オークなど)で作られ、蓋には貝殻など海のモチーフを彫った飾り(象牙や鯨の骨のプレート)が付いたエレガントなもの。髪がすっかりシルバーになった上品なおばあさんが持つと、とても素敵に見えるのだが、世界一高価な“セレブ御用達”のバスケットでもある。